

教育講演

格差社会におけるセーフティネットの構築と在宅看護： 住み慣れた地域で最期の時を

*Construction of safety net and home nursing in disparity society:
The last time in a familiar area*

山下 眞実子

●NPO法人訪問看護ステーションコスモス

1. はじめに

現代日本の問題として、単身・高齢・貧困・病気の人たちの増加、そして経済格差の現状がある。経済面における格差は、富裕層と貧困層に社会が二層化され、富む人はさらに富、貧しい人はいっそう貧しくなっている。

人は生涯にわたって安泰で順風満帆に暮らせる人はめったにいない。生きていくにあたり、さまざまな困難やトラブルに直面する。失業、高齢、病気、事故等個人の力では解決できないことが多くある。その時に生活を支えるのが、社会的なセーフティネットである。第一のネットは雇用のネット、その次が社会保険・社会福祉のネット、最後に公的扶助の柱になるのが生活保護制度である。しかし、セーフティネットの活用のみでは解決せず、ホームレス生活を繰り返し、自殺、孤立死に追い込まれる人が多く出てくる。

これら多くの問題を先取りしているのが、大都市東京では山谷地域といえる。一方、山谷地域にはセーフティネットを超えた山谷地域のケア連携がある。各団体・有志がさまざまな取り組みを行い、山谷地域の人々の活力を引き出し、そして最期の時を支えている。

2. 山谷地域を取り巻く現状

「山谷」と呼ばれる地域は台東区、荒川区の両区にまたがり、現在地図には存在しない。

通称ドヤと呼ばれている簡易宿所が140件位あり約4,000人の人たちが生活をしている。1室3畳の宿所が大半であり、なかにはベットハウスと呼ばれる大部屋もある。山谷地域はかつて日本の高度経済成長を支えた日雇い労働者の街であった。1990年代のバブル景気崩壊後は仕事が極端に減り、現在では現役の労働者を見ることはほとんどなく、仕事をするのが難しい単身・高齢の生活保護者が大部分である。また、山

谷地域にはホームレス生活を余儀なくされている人たちも多くいる。

過疎化した地方などで65歳以上の住民が半数以上になると、社会的共同生活の維持が困難となる現状を限界集落と呼ぶ。高齢化の進んだ山谷地域は大都会東京における都市型限界集落ともいえる。

3. 訪問看護ステーションコスモスの取り組み

コスモスは2000年山谷地域を含めた訪問看護ステーションとして出発し、19年目を迎えている。医療・看護が十分に行き届かない山谷の地域にこそ、私たち医療・看護の手が必要であるとの思いより設立された。

訪問看護を始め健康相談・デイサービス・宿泊所事業を行っている。山谷地域で訪問看護を行うなか、病気や障がいを持ち行き場を失った人たちが、本人たちの意図しないかたちで地方の病院や施設へ送られる現実を多く見てきた。「最期の時を看護の力で支えたい」との熱い思いを持ち、2008年コスモスは最期の時まで安心して住むことができる、コスモスハウス「おはな」を事務所近隣に立ち上げ、その後支援付きアパートを建設した。宿泊施設では一人ひとりの尊厳を大切にし、自己決定権を尊重する関わりを行ってきた。

2018年にコスモスは事務所近隣にお墓を建立した。山谷地域には家族との縁を絶った人が多い。希望すればコスモスのお墓で弔うことも可能であり、このことは多くの人たちの安心感にも繋がっている。

4. 関わりで大切にしていること

1978年アルマ・アタ宣言が採択された。プライマリ・ヘルス・ケアの大切さを示した最初の国際宣言である。すべての人にとって健康を基本的な人権として認め、その達成過程において、住民の主体的な参加や自己決

定権を保障する理念である。この理念は、訪問看護ステーションコスモスも大切にしている理念でもある。

最後のセーフティネットと言われる生活保護、しかし生活保護だけでは補えない一人ひとりの生き方がある。画一的な支援を考えるのではなく、個々の尊厳を認め自己決定権を尊重することで対象者の命は輝いてゆく。

本田徹氏は「プライマリヘルスケアとは結局医師の価値観やパターンリズム（支援等々）に従わせることではなく一緒に生きて行くなかで、その人なりの健康を少しだけでも増してゆくお手伝いをする」と言っている。そんな関わりを今後も訪問看護ステーションコスモスはしていきたい。

5. おわりに

山谷地域には単身・高齢者が多く、病気になった時には孤独の中で日々不安の時を過ごしている。一方、山谷地域にはネットワークがあり各NPOの団体などがそれぞれの取り組みをしている。山谷地域のケア連

携は、あるときはセーフティネットや家族の役割も果たし、最期の時まで寄り添い支援を行ってゆく。

山谷地域のように、大都市で高齢化している生活困窮者は、年々加速度的に進んでいる。一人ひとりの尊厳を大切にし、最期の時を寄り添い看取る。このような取り組みが、ほかの地域にも広がることを強く望んでやまない。

参 考

【書籍】

稲葉剛. ハウジングプア. 東京：山吹書店；2009.

稲葉剛. 生活保護から考える. 東京：岩波書店；2013.

本田徹. 世界の医療の現場から. 東京：連合出版；2019.

【書籍の一部】

結城康博, 嘉山隆司. 第6章 路上に生きる「老後」を看護師の立場から見る. 山下眞実子. 東京：岩波書店；2010.